



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	琉球大学資料館（風樹館）概要
Author(s)	-
Citation	琉球大学資料館（風樹館）収蔵資料目録 第1号：琉球大学資料館（風樹館）収蔵タイプ標本目録(1): 94
Issue Date	2009-03-31
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/12733
Rights	

琉球大学資料館（風樹館）概要

琉球大学資料館（風樹館）には、学内外の研究者が教育や研究活動の一環としておもに琉球列島で収集した4万点あまりの学術資料が収蔵されている。館内は、一般に公開されている1階常設展示室（自然系展示室と文化系展示室）と2階標本収蔵室及び研究室からなる。自然系展示室には、イリオモテヤマネコやノグチゲラなどの希少生物の標本をはじめ、両生爬虫類標本、昆虫標本、サンゴ骨格標本、琉球列島産岩石標本などが展示されている。文化系展示室には、首里城復元の際にも利用された大龍柱（阿形）の頭部や日時計などの首里城関連考古資料のほか、古農具や藁算などの民俗資料、染織や陶器などの伝統工芸資料が展示されている。また、当館には自然学習の場としての「学校ビオトープ見本園」が併設されており、様々な動植物が観察できる。

沿革

1967年3月

旧首里キャンパスにおいて、金城キク商会（金城報恩会）から農業博物館（風樹館）が寄贈される。

1967年11月

農学部には風樹館運営委員会を置き、高良鉄夫農学部長が初代委員長となる。

1983年5月

本学の千原キャンパスへの移転に伴い、新たに学内共同利用施設として「標本資料館設置のための検討会」が組織される。

1985年3月

琉球大学資料館竣工。

1985年4月

各学部から選出された教官によって資料館運営委員会が設置され、琉球大学資料館規則が制定される。館名は従来の風樹館を継承することとなる。

1985年9月

旧風樹館および各学部から標本資料等の移転を完了し開館となる。初代館長には農学部の東清二教授が選出され、資料館専任スタッフとして教務職員一名が配置される。

1999年4月

東清二館長退官のため、川島由次農学部教授が館長に選出される。

2005年4月

川島由次館長退官のため、屋富祖昌子農学部助教授が館長に選出される。

2007年4月

屋富祖館長の任期満了により、砂川勝徳農学部教授が館長に選任される。



県内の著名な建築家であった金城信吉氏が設計した建物で、沖縄の城跡や墳墓にみられる石造建築をモチーフにしている



自然系展示室（1階）



文化系展示室（1階）



タイプ標本収蔵庫（2階）



学校ビオトープ見本園